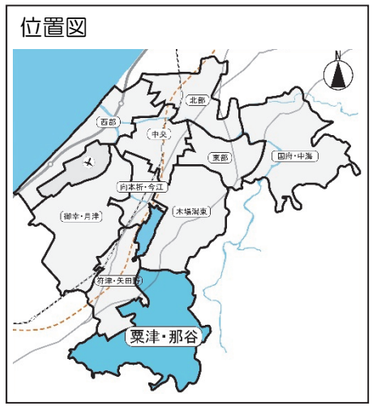
10 粟津・那谷地域（粟津・那谷）

1．地域の現況

位置図



・本地域は、粟津校下と那谷校下からなり、本市南部、国道８号（小松バイパス）南東部の丘陵部に位置する。

・本地域には、粟津温泉、那谷寺等の観光施設があり、本市の重要な観光拠点地域の一つとなっている。

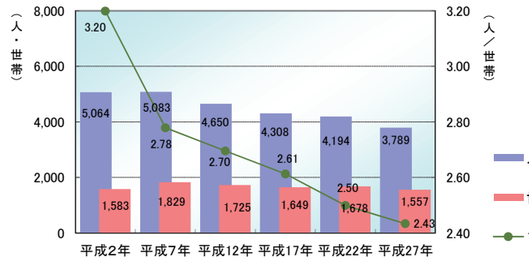
・粟津温泉の観光入込み客数は伸び悩みの状況にあり、また、地域内の人口も減少していることから、活性化が望まれている。

・地域内はほとんどが市街化調整区域であり、市街化区域内には住居系と商業系の用途が存する。

・平成 27 年現在の人口は 3,789 人であり、人口減少が著しい。また、平成 27 年の一世帯当り人員は 2.43 人と低く、高齢化率も 31.8%であり、10 地域の中で南部地域に次いで高い。

●基礎データ		都市計画区域内に占める割合	都市計画区域内の平均	備　考
面積（ha）	2,241	18.4%		都市計画基礎調査値
人口（人）	3,789	3.7%		H27国勢調査値
世帯数（世帯）	1,557	4.3%		〃
人口密度（人/ha）	1.69		11.10	
平均世帯員数（人/世帯）	2.43		2.79	
高齢化率（%）	25.3 【11.3】		23.0 【 11.0】	H22国勢調査値
【 】は75歳以上の割合（%）	31.8 【13.5】		27.0 【12.4】	H27国勢調査値

●人口・世帯数の推移

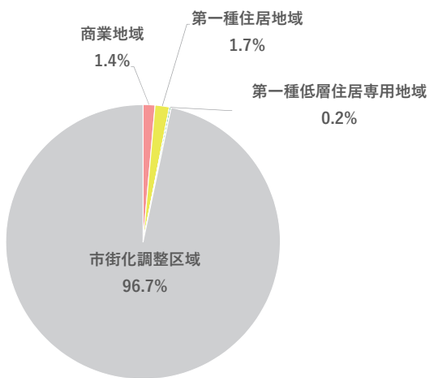


◆小松市高齢化率
H22 ： 23.6%【11.5%】
H27 ： 27.6%【12.9%】
【 】は 75 歳以上の割合

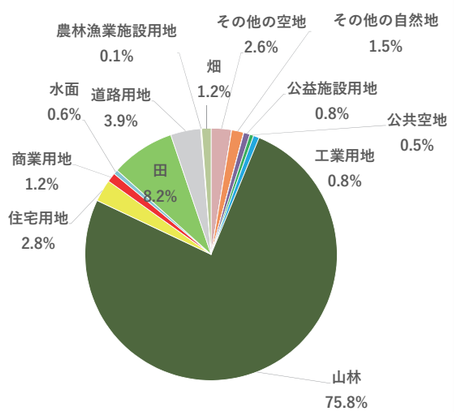
◆伸び率（H17→H27）
人　口：－12.0%
世帯数：－ 5.6%

出典：国勢調査

●区域区分・用途地域

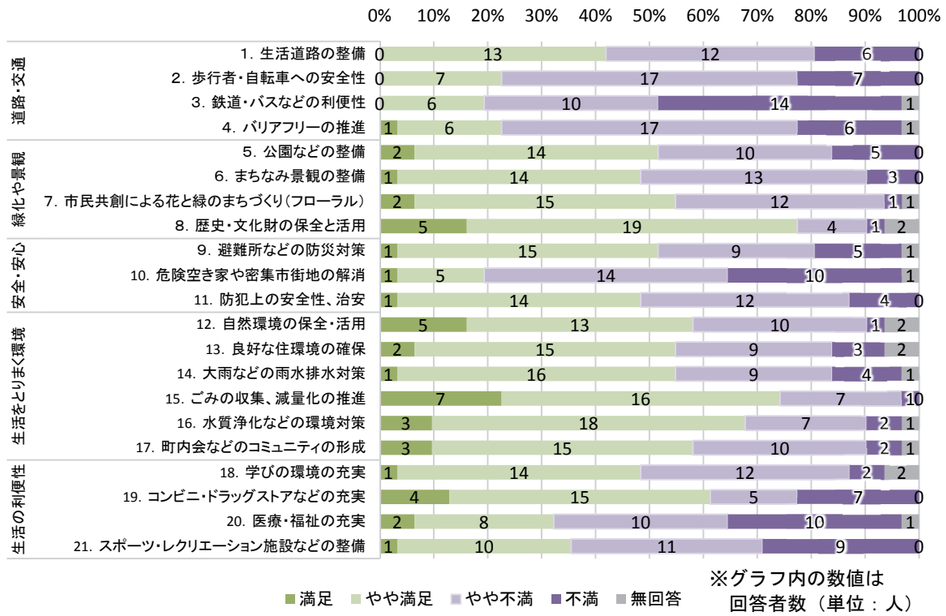


●土地利用現況



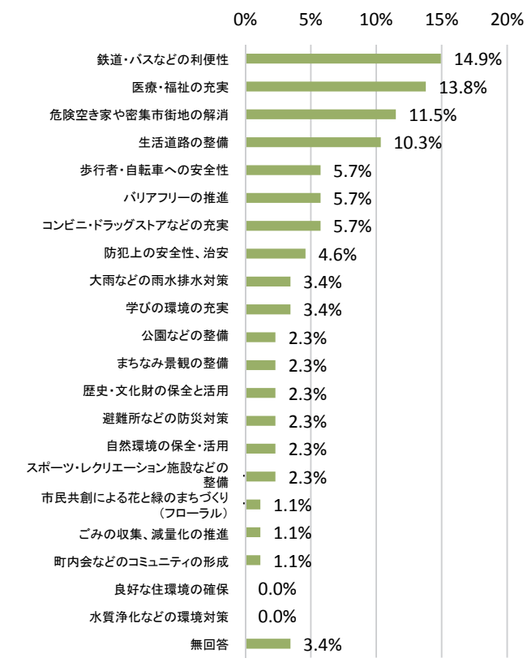
2．住民意向調査結果　（回答者数：31 人）

●生活環境の満足度



※グラフ内の数値は回答者数（単位：人）

●さらに住みよくなるために重要なこと



●具体的なまちづくりの方策について

◇道路交通網の整備について重要だと思うこと
▶ 身近な生活道路の整備

◇公園・広場の整備について重要だと思うこと
▶ 防災拠点としての公園整備

◇まちなみ景観について重要だと思うこと
▶ 無電柱化による景観の整備

◇防災対策について重要だと思うこと
▶ 避難場所や備蓄倉庫などの充実

◇環境対策について重要だと思うこと
▶ 豊かな緑や自然の保全
▶ 公共交通の利用促進、クリーンエネルギー利用によるＣＯ２排出抑制

◇市街地の整備について重要だと思うこと
▶ 空き地、空き家、空き店舗の対策

◇小松駅周辺の整備や取組について重要だと思うこと
▶ 駅周辺のにぎわいづくり

◇まちづくりにおける市民の役割について
▶ 自分の住んでいるまちや地域に関心を持つこと

3．地域のまちづくりの方針

〔まちづくりの目標〕

住む人訪れる人が心地よさを共有できる北陸最古の温泉と歴史・自然にふれるまち

本地域は、粟津温泉、那谷寺など、歴史的にも貴重な本市を代表する観光交流の拠点を有する地域である。近年、宿泊施設の廃業が相次ぐなど温泉街の空洞化が急速に進展している。

こうしたなかで、現在、総湯・足湯の整備や街路の整備など粟津温泉の再生に向けた取組が進められており、北陸新幹線の金沢開業効果と相まって観光客の減少に歯止めが掛かり、回復の兆しがうかがわれる。

2023 年の北陸新幹線小松駅開業をきっかけに、一層の活性化が実現するように、今後とも粟津温泉街の魅力向上を図るものとする。

また、地域の人口が減少していることから、居住者においても快適で安全に暮らせるよう、居住環境の向上や防災基盤の整備充実を推進し、人口の定着化を図る。

一方、本地域の背後には、緑豊かな丘陵が横たわっており、地域の良好な都市環境並びに都市景観を形成する要素として保全に努める。

また、隣接する地域とも連携を図り、周辺の観光・レクリエーション拠点とのネットワーク化やアプローチ道路の整備等を推進し、観光拠点地域として、また住宅地として魅力と快適性を備え、住む人も訪れる人も心地よく滞在、あるいは暮らせる地域づくりを目指すものとする。

〔課題と主な整備方針〕

1 広域交通機能の充実と活用

・国際化による市内観光増加を見据え、バスやタクシーなどの二次交通網を充実し、小松空港や南加賀ターミナル駅（JR 小松駅）、JR 粟津駅とのアクセスの向上を図る。

2 暮らしや長寿社会への対応

・空き家・空き地の有効活用、既存集落周辺では開発の緩和により一定割合の宅地化を推進し、コミュニティを維持・活性化する。
・バスの利用の促進を図るとともに、集落等と JR 粟津駅等を結ぶ公共交通のネットワークを形成する。

3 こまつの魅力・活力を高める土地利用や都市基盤の整備

・温泉地の魅力再生と活性化に向けた交流広場等の整備や安全で快適に歩ける散策環境の整備による温泉街の魅力強化を図る。
・導入路となる都市計画道路の整備推進を図る。

4 定住と交流の増大

・住宅地内の狭隘道路の改善や通学路における歩道の設置による安全対策を推進する。
・多言語対応の案内サインの設置や観光施設のネットワーク化による周遊性の向上を図る。

5 自然環境との共生、地域特性を活かした景観の創出

・無電柱化の推進や住民主体によるまちなみ景観のルールづくりにより、風情ある温泉街の景観づくりを推進する。
・有害鳥獣等を資源とするジビエ等を通じて都市住民等の関わる機会を得ながら、東部丘陵地の緑豊かな景観や自然環境の保全と共生を図る。

6 災害に強い安全な都市空間の形成

・安全な避難場所や避難路の確保、狭隘道路の改善、土砂災害防止施策を推進する。
・温泉街の宿泊施設等と連携した緊急時の避難救護体制を確立する等の防災性の向上を図る。

7 多分野への ICT 化の促進

・ICT を活用したバス運行情報システムの導入等により利便性・快適性を向上し、スマートな交通を実現する。
・公衆無線 LAN サービスの維持、向上により、観光等での情報収集・発信しやすい環境の整備により周遊の利便性の向上を図る。

8 オールこまつの「共創」の意識

・地域と公立小松大学、こまつ市民大学等との連携により、地域を担う人材の育成を促進する。
・地域住民との共創による温泉街の景観づくりや観光イベントを推進する。

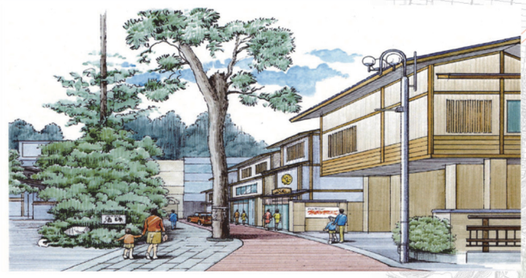
10. 粟津・那谷地域の整備方針図（粟津、那谷）

住む人訪れる人が心地よさを共有できる
北陸最古の温泉と歴史・自然にふれるまち

粟津温泉周辺

3 粟津温泉は現在、粟津温泉の再生に向けた取組として、総湯、道路、交流広場等の整備が進められており、今後も温泉街としての顔づくり、無電柱化や街並み修景等の推進により、北陸最古の歴史を誇る温泉地の魅力再生と活性化を図る。

3 粟津温泉への導入路となる（都）島粟津線の整備を推進するとともに、県施工の（都）粟津津波倉線では、無電柱化や安全な歩行者空間の確保により、温泉客が安全で快適にそぞろ歩きができる道路空間、観光地にふさわしい沿道景観の創出を図る。



5 粟津温泉では、無電柱化の推進や住民主体によるまちなみ景観のルールづくり（建物や屋外広告物のデザイン、色彩等）により、風情ある温泉街の景観づくりを推進する。

6 温泉街において、安全な避難場所や避難路の確保、狭隘道路の改善、土砂災害防止施策、不燃化・耐震化を促進するとともに、宿泊施設等と連携し緊急時の避難救護体制を確立する等、防災性の向上を図る。

那谷寺周辺

4 那谷寺周辺において、来訪者の利便性向上を図るとともに、生活者の居住環境の向上を図る。

観光資源

4 粟津温泉、那谷寺、ゆのくにの森、こまつドーム、自動車博物館、ゴルフ場等を有機的に連携する観光ネットワーク化を推進する。

4 観光施設間の周遊性向上を図るため、多言語対応の案内サインの設置を推進する。

既存集落周辺・東部丘陵地

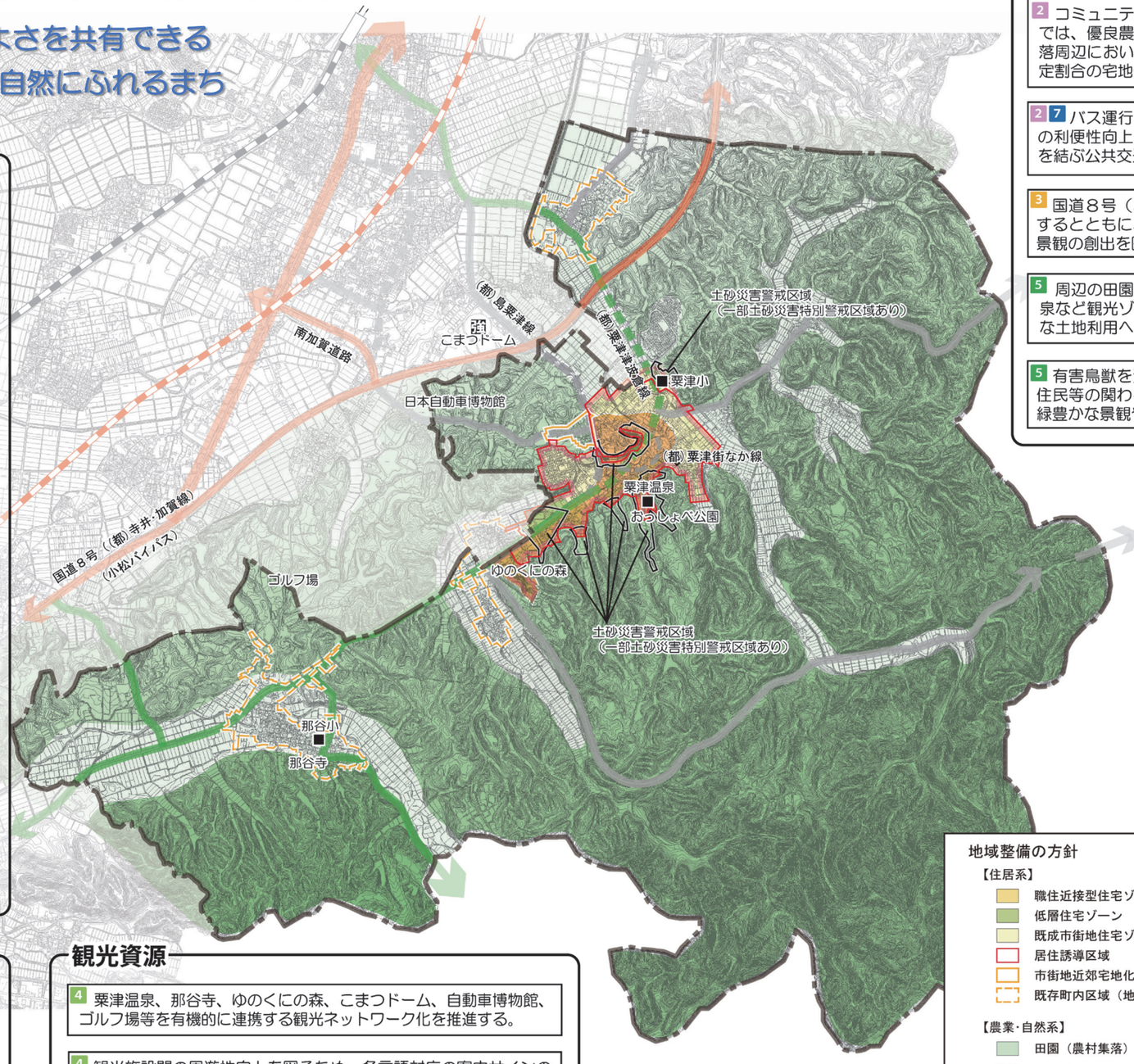
2 コミュニティ単位で人口が減少している地区では、優良農地との整合に十分配慮し、既存集落周辺において諸制度の適切な運用により、一定割合の宅地化を進めることとする。

2 7 バス運行情報システムの導入等によるバスの利便性向上、集落等と粟津駅および小松駅とを結ぶ公共交通ネットワークの形成を図る。

3 国道８号（小松バイパス）の４車線化を推進するとともに、周辺環境に調和した良好な沿道景観の創出を図る。

5 周辺の田園環境との調和を図りつつ、粟津温泉など観光ゾーンへの玄関口にふさわしい適切な土地利用への誘導と景観形成を図る。

5 有害鳥獣を資源とするジビエ等を通じて都市住民等の関わる機会を得ながら、東部丘陵地の緑豊かな景観や自然環境の保全と共生を図る。



地域整備の方針

【住居系】
- 職住近接型住宅ゾーン
- 低層住宅ゾーン
- 既成市街地住宅ゾーン
- 居住誘導区域
- 市街地近郊宅地化区域
- 既存町内区域（地域コミュニティ維持・活性化）

【産業系】
- 商業業務地ゾーン
- 沿道サービスゾーン
- 工業専用ゾーン
- 都市機能誘導区域

【農業・自然系】
- 田園（農村集落）ゾーン
- 森林ゾーン

【その他】
- 医療・健康増進・温泉・観光ゾーン
- 新規土地活用ゾーン

【道 路】
- 主要幹線道路
- 幹線道路
- その他の道路

【避難場所】
- 避難・救護拠点
- 指定避難所
- 機能強化指定避難所

【区分境界】
- 地域区分境界
- 市街化区域界

※番号は課題に対応

1：広域交通機能の充実と活用　2：暮らしや長寿社会への対応　3：こまつの魅力・活力を高める土地利用や都市基盤の整備　4：定住と交流の増大　5：自然環境との共生、地域特性を活かした景観の創出　6：災害に強い安全な都市空間の形成　7：多分野へのICT化の促進　8：オールこまつの「共創」の意識